

たじみん昼話 41

気になるシミのはなし

ききょうの顔はシミだらけで、年齢とともに増えている。最初のうちは、「こんなにできて嫌だな」と思っていたが、最近、他の人に何か影響を与えるわけではないからどうでも良い、と数の増減が気にならなくなってきた。

しかし、太陽のシミの増減となると、そうのんびりと構えてはいられない。

湯元清文・九州大宙空環境研究センター長(宇宙地球電磁気学)のチームの分析によると、太陽のシミの数が減少すると、巨大地震の発生頻度が上昇することを報告したからだ。

太陽のシミとは、太陽表面の少しばかり温度が低い場所、即ち黒点のことだ。この黒点が増減すると、地球大気の状態が変化する。チームは「この変化が地球内部にも影響を与えているのでは」と仮説を立て、1963～2000年の太陽の黒点数の減少現象と、32万7625回の地震(マグニチュード(M)4以上)の発生頻度との合致率を調査した。

すると65%が合致することがわかった。地震の対象を、さらに強力なM5.0～7.9で調査しても、ほぼ同じ割合だったという。驚くべきは、M6以上の地震では70%、28回発生したM8.0～9.9という巨大地震では79%と、地震が強くなるほど一致率が上昇したことだ。

黒点数が少ない時期には、太陽から吹き出す太陽風(電気を帯びた粒子の流れ)が、毎月平均3～4回強まる。太陽風が吹き荒れると、地上の送電線に巨大な電流が誘導され、大規模停電が発生することが知られている。この影響が、地球内部にも及んで地震が発生している可能性をこの報告は示唆している。

湯元センター長は「太陽と地震の活動をつなげる要素は不明だが、地震の謎を解明する手がかりにしたい」と話している。

シミは、お肌の敵だが、人類の脅威になるのかもしれない。